

令和 7 年度 学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	23	学校名	茨城県立水戸桜ノ牧高等学校				課程	全日制		学校長名		橋本 晃輝					
副校長名	田中 淳子				教頭名		上田 智之				主査兼事務長名		佐藤 健一				
教職員数	教諭	55	養護教諭	1	常勤講師	2	非常勤講師	6	実習教諭、実習講師、実習助手、ALT		2	事務職員	4	技術職員等	3	計	77
生徒数	小学科			1 年		2 年		3 年		4 年		合計		合 計 クラス数			
				男	女	男	女	男	女	男	女	男	女				
	普通科			202	118	213	107	200	119			615	344	24			

2 目指す学校像

21 世紀を担う若者としての勤労観・職業観を培うために、高い次元の「文武両道」を教育目標に掲げ、進路指導の充実と部活動の奨励に努め、思いやりのある豊かな心と将来への夢を育むたくましい生徒の育成を目指す。 グローバル化が進む中、異文化に対する理解を深め、真の国際人たるに相応しい資質を養う等、本校が創立以来推進している国際教育の振興に努める。
--

3 三つの方針（スクールポリシー）

育成を目指す資質・能力に関する方針 （グラデュエーション・ポリシー）	卒業までに次のような生徒を育成します。 ・21 世紀を担う若者としての勤労観・職業観を備え、自主的・自律的に学習に取り組むことができる人財。 ・思いやりのある豊かな心を持ち、将来への夢を育むことができるたくましい人財。 ・異文化に対する理解を深め、真の国際人たるに相応しい資質を備えた人財。
教育課程の編成及び実施に関する方針 （カリキュラム・ポリシー）	次の方針に基づいて教育課程を編成・実施します。 ・主体的、対話的で深い学びの推進を図るとともに、上級学校への進路実現を目指す。 ・「文武両道」のもと、全人的な人間性の向上に努め、豊かな心と将来への夢を育むたくましい生徒の育成を目指す。 ・国際理解教育、国際交流活動の推進を図り、国際化に対応できる人材の育成を目指す。
入学者の受入れに関する方針 （アドミッション・ポリシー）	次のような生徒を求めています。 ・中学で修得すべき基礎学力の上に、各自の心身の発達及び進路に応じて、本校で高度な学力を身につけようとする生徒。 ・部活動や様々な学校行事に意欲的に取り組み、協働的な学びを大切にしようとする生徒。 ・本校で身につける資質・能力を発揮して、様々な課題に主体的に取り組む、自己と異なる意見も尊重し、国際社会で活躍しようとする意欲のある生徒。

4 現状分析と課題（数量的な分析を含む。）

項 目	現 状 分 析	課 題
教 科 指 導	・授業に取り組む姿勢は概ね良いが、学習方法を自ら試行錯誤するなど主体的に学ぶ態度に課題がある。 ・授業規律の徹底が一部不十分である。 ・授業改善推進プロジェクトが軌道に乗り、組織的取組ができている。授業評価アンケートにおける「授業満足度」の学校平均は 3.5 である。	・総合的な探究の時間をさらに充実させ、自ら学ぶ態度を育成する。 ・チャイムスタートを通年、すべての授業で実施、授業のルールを教員・生徒で確認する。 ・組織的な授業研究・研修の更なる推進を行う。
生 徒 指 導	・交通事故は 18 件発生し、救急車搬送が 3 件あった。 ・自転車の乗り方で周辺住民から苦情をいただくことがある。 ・精神的に不安定で S C への相談が必要な生徒が増加している。 ・学校だけで解決できない問題について外部の支援をいただいた。	・交通安全指導を充実させ、ヘルメットの着用を含めた自転車乗車マナーの一層の向上を目指す。 ・教育相談を充実させ、心の問題の早期ケアを行う。 ・外部機関との連携を一層進める。
進 路 指 導	・令和 7 年度大学入試は、国公立大学は 113 名、私立大学 610 名合格等、進路希望は達成された。 ・学校評価アンケート「進路に関する指導・面談がよく行われている」では 90%以上の肯定的評価を維持している。 ・生徒が進路について自分事として考える時期が遅れがちである。	・思考力、判断力、表現力の評価を目指す「大学入学共通テスト」への対応を推進する。 ・三年間を見通した組織的なキャリア教育を推進し、生徒自ら考え行動するための支援を行う。
国 際 教 育	・オーストラリア短期留学、ブリティッシュ・ヒルズ英語研修、異文化理解セミナーを実施し、生徒の学習意欲向上が見られた。 ・令和 6 年度卒業生は、英検準 1 級取得者 1 名をはじめ 2 級取得者の割合 44.0%、準 2 級取得者の割合は 61.7%であった。	・国際理解に関する行事を探究活動やキャリア教育と関連づける。 ・英検の受験体制を整備し、個に応じた指導の充実を図る。
特 別 活 動	・文化祭やクラスマッチ等の行事が生徒主体で開催できた。学校評価アンケートで行事に関する評価が 40%アップした。 ・部活動は高い加入率を維持しており、活動を通して仲間と課題解決に取り組む意識が育っている。運営方針を守りながら上位大会出場を実現した。	・特別活動における自らの学びのプロセスを蓄積し、振り返ることができるようにする。 ・自分たちの学校を自分たちでよりよくしていく意識を高める。 ・効率的で効果的な練習及び活動を推進する。
働き方改革	・働き方改革に対する意識は高い。R6 年休取得は平均 14 日である。 ・時間外在校時間の月平均は 30 時間 26 分で、県平均の 22 時間 55 分を上回った。生徒の活動が活発なので超過勤務になりやすい。	・校務分担の工夫により業務負担の平準化を図る。 ・業務の見える化と地域・保護者の理解を促す。

5 中期的目標

- 1 生徒一人ひとりが自主的・自律的に生き生きと学習に取り組む。
- 2 学校生活全般を通じて生徒が課題解決力を身につけ、成功体験を積み重ねる。
- 3 教職員が授業改善や児童生徒等に接する時間を確保し、効果的な教育実践ができる。

6 本年度の重点目標

重 点 項 目	重 点 目 標
自主的・自律的な学びの推進	① 生徒が自己を理解し、学習方法を試行錯誤するなど学習を調整しながら粘り強く取り組む。 ② 生徒が I C Tを活用しながら協働的に学ぶ。 ③ 教職員と生徒で授業をよりよいものにし、授業満足度平均 3.5 以上を目指す。
安心・安全な学校づくり	① 教職員と生徒が協働して、けじめある温かな学級づくりを行う。 ② 生徒が悩みや不安を相談できる教育相談を実施する。 ③ 校内安全・施設の確認徹底および危険箇所の早期発見に努める。
文武両道の実践による 生徒の全人的成長	① 特別活動、部活動を通して、自分たちで目標を設定し計画実行する課題解決力とコミュニケーション能力を育む。 ② 学校全体で文武両道の価値観を共有し、励ましあう学校風土をつくる。
国際理解学習による生徒の チャレンジ精神高揚	① 国際理解学習を通して他者理解を深め、他国の課題を自分事として考える意識が高まる。 ② 各種コンクールや検定への挑戦により、国際社会で通用する英語力を身に付ける。
教職員が創意工夫する働き方改革	① I C T活用を推進し事務作業の効率化を図る。 ② 業務のマニュアル化を進める。 ③ 働き方改革について関係者の理解を得られるよう努める。